

## 中学校 英語科 部会

部会長名 金田中学校 小原 孝司  
実践者名 勾金中学校 中村 廣

### 1 研究主題

英語科の授業において、生徒の学ぶ意欲を喚起し、みんなが「わかった」と言える授業づくりを目指して  
～授業の学びの場を導き出す発問の工夫～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 新学習指導要領から

新学習指導要領に「各学校においては、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し創意工夫を生かした教育活動を展開する」とある。英語科研究主題の「生徒の学ぶ意欲を喚起する授業づくり」にはまさに創意工夫を生かした教材研究や授業の手だてが必要であり、主題を授業実践において具現化させていくことは、生徒による主体的な学びの場を創り上げることに繋がり、学習指導要領に記された指針が研究主題に沿った教育実践を通して実現できると言える。

#### (2) 学校教育目標から

平成23年度勾金中学校教育目標は、「心豊かに、たくましく生きる生徒の育成」である。知育・徳育・体育の調和のとれた生徒の育成を目指しており、そのどれも「育つ」ということである。そのためには、生徒自らが学習内容を理解し、自分のものとし、生きていく知恵に変えていかなければならない。学習目標を明確にし、生徒が一生懸命に発問に対して考えたり、活動したり、調べたり、臆することなく発表することができる授業を創ることが大切である。英語科研究主題の設定は、まさにその学びの意欲を導き出すことを目標としており、学校教育目標、目指す生徒像を具体的な授業実践を通して具現化させる手だてである。

#### (3) 生徒の実態から

本校生徒は明るく元気であるが、愛情不足や厳しい生活背景から荒れを見せる傾向が数年続いた。また、学習面においても今日的課題である学習意欲の低下、学力の二極化が見られ、英語科を含め学力向上は最重要課題である。この課題克服のために、生徒たちが「わかった」と言える授業を創っていかなければならない。それが学習意欲の向上、学力向上に欠かせない実践である。その大きな手だてとして、互いに生徒たちが支え合いができるような学びの場が展開される授業、また発問を工夫することによって意欲的な学びが展開される授業づくりを行うことを考えた。

#### (4) サブテーマから(尊重感・共生感・達成感)

「学びの場」とは、生徒たちと教師が授業という同じ場所(空間)と同じ時間を共有して成立するものである。その「学びの場」を導き出すためには、生徒たち一人ひとりを大切にすること「尊重感」、生徒と教師が共に学び合うこと「共生感」、今日の学習内容がわかったと言える授業づくりをすること「達成感」を基底に据えた授業に取り組むことが必要である。つまり、生徒たちが仲間を支え合い、学びを共有し、高みへと登っていくことである。これが英語科研究副主題の具現化に必要な重要な視点である。

### 3 主題設定の意味

#### (1) 研究主題を支える教育観(あじさい教育構造)

あじさいの花が咲く姿を教師たちが支える学級の姿と捉える。

花・・・学級が実践する姿(修学旅行英語メッセージ交換の取り組み等)

幹・・・柔軟であるが簡単に折れることはない生徒を支える教師の愛情と信念

葉・・・生徒を取り巻く環境(学習支援・SC・SSW等)

根・・・生徒を支える学校教育目標・研究主題

「わかる授業の創造」は「支える」という根幹を背景として取り組むことに意味がある。

#### (2) 英語の授業を{みんなが「わかった」}と言えるものにするにはPDCAの流れを基に授業を構築することが必要である。そこで、研究主題を読み取り「学ぶ意欲の喚起、あるいは発問の工夫」のために1単位時間を構築することが重要である。そこで、「ま・が・り・か・ね」学習過程を確立したことは大きな意味がある。

「ま」ず授業の既知既習の学習内容の定着からはじめから復習しよう。

(基礎・基本の定着を図る)

{現在分詞・過去分詞の後置く修飾の5問学習}

「が」く習の内容のめあてを生徒の立場から気づかせよう。(主眼の提示)

{現在分詞から関係代名詞への移行}

「り」かいを深めよう。

{学びを共有する・関係代名詞とは何か・言語活動}

「か」く実な定着を図ろう。

{基礎的表現の反復学習}

「ね」クストステップへ進んでいこう。

「わかる授業の創造」、それはあたかも子どもたちが自分の力で新しく「発見」したと感じ、「創造」したと思えるような主体的な学習の場を創り上げることである。

### 4 研究の目標

#### (1) 生徒・教師・教材の相関関係の構築を図る。

#### (2) 「ま・が・り・か・ね」学習過程に沿って、英語の授業展開の工夫に取り組む。

#### (3) 評価方針、方法、体制について教師間の共通理解を図る。(校内研修)

#### (4) 授業改善に取り組む。(授業アンケート、指導方法工夫改善による学習支援)

#### (5) 発問の工夫を行う。

「は」っきりと課題や思考すべき内容を投げかける発問を練る。

「つ」ぎになにをすべきかの意図がはっきりとした発問を準備する。

「も」っと理解を深めたいと思えるような発問を工夫する。

「ん」ーと考えさせる問題解決的な発問を考える。

5 研究仮説

英語の授業において尊重感・共生感・達成感を基底に据え、授業の主眼を明確にし、学びの場を導き出す発問を工夫していけば、生徒自らが主体的また意欲的に学習に臨むと共に学習規律が整った授業が確立でき、英語の授業が「わかった」と学びの喜びを感じる生徒を育成することができるであろう。

6 研究の計画

(1) 単元 Unit 6 20th Century Greats  
New Horizon English Course 3

(2) 単元の指導目標及び指導計画

単元		Unit6 20th Century Greats	総時数	9 時間	時期	1 1 月
単元の目標		単元の題材について、自分の意見や考えを英語で積極的に述べることができる。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 接触節、関係代名詞（主格、目的格）を正しく使って英語を書いたりすることができる。 【表現の能力】 接触節、関係代名詞が含まれた英文を正しく聞いたり、教科書の内容を適切に音読することができる。 【理解の能力】 教科書の内容や接触節、関係代名詞の文法的な知識を理解している。 【言語や文化についての知識・理解】				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点		
第1次	1	・世界の偉人たちの功績について発表し合う。	・学習班を使って学習活動に取り組む。	・事前資料等の配布をしておき、教科書の範囲を中心に発表活動に取り組ませる。		
	本時1	・関係代名詞(主格)を使った言語活動に取り組む。	・現在分詞から関係代名詞への既知・未知への展開に取り組ませる。	・TT指導による新出事項の学習支援を行う。 ・発問の工夫をする。 (研究発表会)		
第2次	1	・関係代名詞の言語構造を理解する。	・教科書を中心に音読、リスニングに取り組む。	・TT指導による音声指導に取り組む。		
	1	・教科書の内容を理解する。	・板書を中心とした基礎・基本の定着に取り組む。	・板書、ノート指導を工夫する。		
第3次	1	・関係代名詞(目的格)を使った言語活動に取り組む。	・意欲的に言語活動に取り組む。	・TT指導による新出事項の学習支援を行う。 ・発問の工夫をする。		
	1	・教科書の内容を理解する。	・板書を中心とした基礎・基本の定着に取り組む。	・板書、ノート指導を工夫する。		
第4次	2	・新出事項のまとめをする。 ・環境問題のまとめをする。	・復習テストに取り組む。 ・レポートの作成を行う。	・接触節、関係代名詞の用法の定着を図らせる。 (定着テストの実施)		

7 指導の実際

	学習活動	指導上の留意点		評価	配時
		T 1	T 2		
導入	1、後置修飾の復習をする。 2、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5問学習から英語の音声指導を行う。</li> <li>・ 現在分詞の用法から本時の導入を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 1と一緒に学習支援に取り組む。</li> <li>・ 学習規律の支援を行う。</li> </ul>		10
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【導入発問】</b>                      1、2年生でing形の前にはどう                      いう表現を作っていましたか。                 </div>			
関係代名詞を使って、積極的に言語活動に取り組もう。					
展開	3、音読をして、関係代名詞の理解を深める。 4、学習プリント(関係代名詞・主格)を活用して言語活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係代名詞の主格の用法を提示し、新出事項を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 1と関係代名詞(主格)を提示する。</li> </ul>	関心 意欲 態度 様相観察	10
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【主要発問】</b>                      次の絵を英語にするとどんな表現                      を作ることができるでしょうか。                 </div>			
終末	5、板書の英語を使って、定着プリントに取り組む。 6、自己評価票を使って、本時の学習を振り返る。 7、次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導を行いT 2と学習支援に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 1と一緒に学習支援に取り組む。</li> </ul>	知識 理解 プリント 自己評価 カード	7
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【まとめの発問】</b>                      後置修飾の前に隠れていた表現が                      どういうものか気づきましたか。                 </div>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導を行い生徒の理解の様子を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T 1の学習支援を行う。</li> </ul>		

## 8 生徒の授業の感想

- ・「ま・が・り・か・ね」の授業の流れがよくわかりました。
- ・5問学習はいつもやっているなので、だいたいできます。
- ・関係代名詞のところは難しいです。
- ・今日も楽しく授業を受けることができました。

## 9 研究のまとめ

英語科の授業（勾金中学校の全教科の領域）を通して、わかる授業の創造を目指し、尊重感・共生感・達成感を基底に据え、生徒が大切にされる、生徒が意欲的に授業に臨む努力をしてきました。

「ま・が・り・か・ね」学習過程の構築は、英語科のみならず全教科のわたるスパイラルな授業展開として、ごろあわせから始まった表現ですが、1時間の授業づくりの大きな指針になったと言えます。英語科授業を通して、大きく何か新しい実践を立ち上げた訳ではありません。昨年度、授業が成立することが困難な学級もあった実態の中で、生徒たちが「授業が楽しい」と言える授業づくりにベストを尽くしました。まず学習規律の確立からより積極的、主体的な英語学習の実践に努力をしていきたいと思えます。

## 10 研究の成果と課題

### （1）成果

英語科、数学科を中心として、校内研究主題の具現化に向けた積極的公開授業に取り組みました。

生徒への2回の授業アンケート、教師への1回の授業アンケートを実施し、わかる楽しい授業の在り方を模索しました。

研究発表会を通して、各教科も含めて英語科の実践力の向上を目指しました。

学校の荒れを授業づくりから変えていく努力を進めています。

関係諸機関（筑豊教育事務所、香春町教育委員会等）の指導助言で教科経営や校内研修の充実を図ることができました。

### （2）課題

英語科の学力ポイントは依然低い実態があります。毎日の家庭学習、朝自習等、地道な努力を続けています。授業改善や研究主題の具現化を通して、今後も学力向上を目指していかなければなりません。

例えば、英語科公開授業後に全教師参加による協議会の実施等、より実践的な校内研究の充実に関今後取り組む必要があります。

英語科の1時間の学習過程に力を入れてきましたので、言語活動の充実やコミュニケーション能力の向上、異文化理解等、外国語の幅広い視点からの教育へもう一步踏み出してしていかなければなりません。

## 11 参考文献

- |                   |         |           |
|-------------------|---------|-----------|
| 学習指導要領            |         | { 文部科学省 } |
| 教師のための発問の作法       | 野口 芳宏 著 | { 学陽書房 }  |
| 集中が生まれる授業         | 今泉 博 著  | { 学陽書房 }  |
| チームティーチングの授業(中学校) |         | { 国土社 }   |